

「河川流域内の水生植物の地理的遺伝構造を考慮した効率的な保全策の検討」

梶ちがや（土木研究所流域水環境研究グループ）

近年、一級水系本川およびその河川流域内では、気候変動による降雨量の増加への治水策として河道掘削等の改変が進められていますが、流域内の生物多様性保全との両立も強く求められています。しかし、水系の全域で両者を実現することは難しいため、両者を重視する場所をそれぞれ区分けして、流域を1つの保全単位と捉えることが次善策として考えられます。その一方で、生物種によって、流域内の地理的遺伝構造が異なることが考えられ、区分けの指針を策定するためには、保全対象とする生物種の地理的遺伝構造を明らかにする必要があると考えています。

そこで本研究では、河川流域内の複数の水生植物種の地理的遺伝構造を検出し、流路や距離、環境との関係性を明らかにすることによって、河川流域内の治水エリアと水生植物保全エリアを区分けしながら、同流域内で共存させるための効率的な保全指針を提示することを目的としています。

